

京都教区時報

第141号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都教区 発行責任者 村上透磨
 編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

四旬節司教教書

京都カトリック
 青年センター発足

さあ こぎだそう!



詳しくはP7上段をみてね。

開館時間

火曜日～金曜日	10時～17時
土曜日・日曜日	12時～18時
休館日	月曜日・祝祭日

愛称・トレードマーク大募集

青年センターの愛称・トレードマークを募集しています。
 送り先 京都市上京区河原町通今出川下ル東入ル
 聖ドミニコ修道院
 京都修道院旧館2F

司祭評議会定例会議報告

'89年1月4日

新しい評議員が決まりました

審議事項

その他の会代表

A・バルデス師

(1) 新しい評議員の紹介
司教代理 村上真理雄師
教区付司祭代表

松本秀友師

越知健師

瀧野正三郎師

京滋メリノール代表

前期 J・美天久留師

後期 L・ウォルケン師

(2) 常任委員
議長

松本秀友師

瀧野正三郎師
A・バルデス師

(2) 京都カトリック青年センター設置
12月3日宣教司牧委員会で決定
当面、女子ドミニコ会に仮事務所
設置。
〒606 京都市上京区河原町今出川下ル東入ル
聖ドミニコ女子修道院旧館2F

(3) 献金の報告

① 移住の日（9月11日）
1,024,400円

（移住の為にかねがれます。）

② 布教の日（10月23日）
1,131,577円

③ 京都教区アジア交流の為（11月20日を中心）
677,309円

（グリンベイに基づく教会学校教案集）

トマス高橋亘師（69）
帰天
1月21日（アメリカ時間）
田辺教会主任司祭

教区事務所よりお知らせ

「インドへ友愛の手を！」
チャリティー・コンサート
報告と御礼

(1) 司教・司祭の健康について
マイナード師

神戸海星病院入院中
古屋司教様

富田病院入院中

去る12月2日、京都こども文化会館で開催致しましたコンサートにおきまして、

1,010,340円

の収益（寄付金を含む）を得ることができました。全収益金をノートルダム修道女会のシスター・ジーン・シュミットにお届け致しました。

皆様方のご協力とご支援に心より感謝申し上げます。

東朝子
（慈善演奏会事務局）

=あなたの教会学校のために=

（グリンベイに基づく教会学校教案集）

「ワークブック」

小学1年～6年 各3冊

1冊￥250円 3冊セット￥700円

「現代っ子の信仰教育」

教師用 1年～6年

★お問い合わせは京都カトリック教理センターへ



一九八九年 四旬節司教教書

いざ立ち上れ、喜びと感謝をもつて

京都司教 ライムンド 田中 健一

感謝と喜びの中に思いあこすこと

「いつも喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたの方の寛容さをすべての人に知らせなさい。(フイリッピ4・4-6)」

今、私は、聖パウロがこの手紙を、ローマでの囚われの中の苦しい状態で書いていたことを思い起こしております。とすれば、日々いろんな苦しみを荷い、又主と共に十字架を自ら引き受け(マ16・38)、社会の中であつて苦しむ人々のその苦しみを分かち合おうと決心した私達、日本の教会の信徒一人一人にとって、又その一員である私にとつても、大きな慰めと励ましとなるはずであります。

聖パウロは更に話をすすめて、「何事も心配せず、すべてにおいて、感謝をこめて祈りつつ、かつ願い、あなた方が望んでいることを神に向つて打明けなさい。そうすれば人間の理解を超える神の平安が、キリスト・イエズスにおいて結ばれているあなたの心と思いを言つて下さいます」と言つています。

私もみなさんのことを思う度に、パウロのこの感謝の心を持つべき立場にある事を自分に強く言い聞かせております。京都教区ビジョンから始まり、50周年記念を通じて皆様と共にいたしました見直し、そしてナイス。その精神は第二バチカン公会議からずーと一貫する流れであることを

と、私の何度かの教書、又教区時報を通じ確認し合つてまいりました。ナイスはいろんなすばらしい「めざめ」と方向を私達に呼び起こして始めております。一々数え上げればきりがありませんが、まず1月15日、京都カトリック青年センターの発足式が行われました。又、アジア交流基金制度の発足、教区資料室の整備、更にまだ検討中ではありますが、教区相談窓口の開設等に向けて準備中であります。

その他滞日アジアの人々との交流、今年から始まる、信仰入門式を教区合同で行う試み、平和の歩み学習会の定着化等もあります。

その他司祭評を中心とした司祭達の動き、修女連の動き、信徒協の各ブロックの動き、又各グループ、各小教区からの報告、一つ一つ取り上げても、意識している、しないにかかわらず、明らかに公会議、教区ビジョン、ナイスの具体化に向けて、着実に歩んでいることを喜びをもつて見つめることができます。それらのことを思う度に、私はみなさんにお感謝せずにいられないであります。それはみなさんを通じ、つまり教会を通じて働き給う三位一体の神、特に聖靈の導きによるものと思い、信頼と感謝の心を呼びおこせるものなのです。

お一人への感謝となるのであります。

恥かしがらずもつと分かち合いを

確かに教区は、神に向って（つまりそれは人々に向って）動いていると確信しています。ただ一つは私はみなさんにお勧めしたいことがあります。それは、みなさんが個人的に又仲間として、又小教区や修道院を通してなさっているその福音の業、主のみことばにより生きていられるその生き様を、もっと勇気をもって、或る意味でもっと高慢に、伝え合つてみたらと思います。とくに私たちは、謙遜とか謙譲の美德とか、或いは恥かしがつてか、自分達のしている事をあまり伝え様としません。もつと報せ合つたらよいと思います。又、他方、聖人や義人であると意識しそう肩をはりすぎないこと。失敗、躊躇、衝突をおそれすぎないこと。ナイフは度々「本音の分かち合い」と言う言葉が語られましたが、素直な気持ちで対話し合いたいものであります。

教会で修道院で家庭で、司祭同志、信徒と司祭、信徒同志、互いにもつと腹を割つて本気でぶつかれる様にならよいと思います。その意味で「聖なる」とか「立派だ」とか、そういう「から」を一度破つてみる事も大切でしよう。又世の光、地の塩となるには、よい模範も必要ですが、「私達は弱くて、罪も多く、頼りない人間だ」と言う事を示すことも「世に光」となることになるだろうと思います。パウロはやはりフィリッピ人に「対抗意識を持つたり、みえを張つたりせず、へりくだつて、互いに相手を自分よりすぐれた者と思いおのの自分のことだけではなく、他人のこと目に目を向くなさい」(2・3～4)と言っています。

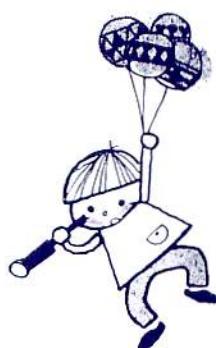
司牧評では、こんな事を考慮し更に話をすすめて下さっています。そして、パイプのつまりの打開と言うことの第一歩として、福音宣教をするための意識化、特に社会に向けての改心（回心）をするための自己養成に取組むための指針を研究して下さっています。

教会 자체がいけにえとなること 適正配置に向けて

さてここで私はもう一つ重要なことがあります。それは非実現しなければならないこと、ナイスでは柱3福音宣教する共配置」と言う言葉で考えられてきた

同体、京都教区ではここ10年、「適正配置」という意味なのは、昨年の私の四旬節教書、又時報、宣教司牧評報告書等によってよく御存知であると前提して語らせていただきます。ただこの問題が、私達の属する集りが、福音宣教共同体（聖書やビジョンの言葉を使うと神の国）となるためにどうすればよいかという、福音の根本的な問題である事を思い出したいのです。そしてそこには福音宣教の基地としての小教区制度やその場所を見直すこと。福音宣教に関わる、信徒、修道者、司祭の人事と役割分担等も含まれてまいります。今教会でしている事、しなければならないことを拾い上げてみますと実際に様々な役割と働きがある事を時報等のアンケートを見ててもお気付き頂けましたでしよう。それはもう司祭、修道者だけでは背負い切れぬものがあり、又背負うべきではない。教会は司祭のものではなく、神の民のものである。神の民とは信じる者の集いです。信じる者は司祭と修道者と信徒です。ですから司祭が信徒に役割を押し付けるということではなく、福音宣教していく上で役割や場所をもう一度神の民である教会に返します。

さて私は今回は、具体的にどこの教会をどうするか、神父様の人事を見直し、分かち合うことであります。勿論、教会は信者のためだけではなく、そこを取りまく社会のためにあると言う事は言うまでもありません。



どうするかという事ではなく、それに具体的に取り組むための精神といつたものを少し述べさせていただきその準備にあてたいと思います。

まずこの問題は、神の国を私達の中に実現せよ、との主の絶対の命令からきていること。(そのため改心と信仰の深まりがいつも要求されます)福音宣教共同体とは、キリストがおられ、支配され、そのお望み通り働く人々の集いという意味での神の国の実現の場、又宣教の場である事を確認しましょう。

次に、このため私達は、奉仕者である、しもべの様にならねばならない(ヨハネ13・14参照)。仕えられるためでなく仕えるために来られた主にならって(マルコ10・44～45)生きること。那是あるキリストの弟子だけではなく、信徒一人一人への招きであること。しかもそれは個人に向かられたのではなく、小教区、修道会、そして教会さえも、仕えるもの、しもべとならなければならぬ。共同体、例えば小教区も社会と神の民全体の奉仕のため「いけにえ」(フィリッピ2・17)とならなければならない。いけにえというのは、誰かのため自分の血を流す、自分を失くす、と言う意味があります。

パウロは、「涙ながらに言いますが、多くの人は十字架を敵として生活していますが、彼等の行きつく所は滅びなのです」(フィリッピ3・18)

ときえ言っているのです。



みなさんは自分達の教会を立派にしようと誠心誠意努力して下さっていますが、この教会という意識を小教区の壁を破り、教区、日本、世界の教会、そして天にある教会(フィリッピ3・20)のためにあるのだと言う事も思い起こしていただきたいのであります。

主は「あなた方でなく私の方があなた方を選んだ」「私の様に仕える者となる様に」「私の様に十字架を取つて従う様に」「私の様に世の光地の塩となる様に」「私の様に小さな人、苦しんでいる人、罪に悩む人に目を向け共に生活を分かち合い」「神が私達に在す(マタイ1・18)事を証しする者となる様に」教会として、個人として、集いとして選んだのだとおつしやつていただける事に心を留めたいと思います。

日々の十字架を荷いながら

私達には、内と外からくるいろんな心痛や悲しみ、苦しみがあります。それは背負い切れないときえ思つことがあります。私達にはそれぞれ、人には言い表わせない心や体からくる十字架もあります。

共に働いて下さっている神父様方も殆んどみな痛みと戦い、去年には数名の神父様方が病いに倒れられメリノール会の神父様も御帰國になりました。シュレーリング神父様、高橋神父様の御帰天もありました。残された私達も肉体と靈魂の間に板ばさみに合いながら戦っています(フィリッピ1・22～26)。しかしみなキリストのため(フィリッピ1・21)人々のためであり、キリストのよい戦いを戦おうとしているのです(フィリッピ3・13・16)。

決勝点に向つて

それでは私達皆が決勝点である主に向つて、常に喜びと感謝の中に、苦しみに打ちまかされる事なく、愛の故に己を無くされたキリストになりますが、この教会という意識を小教区の壁を破り、教区、日本、世界の教会、そして天にある教会(フィリッピ3・20)のためにあるのだといきたいと思ひます。共に祈り合いましょう。

それではみなさん喜んでいきましょう。感謝と喜びの中に進んでまいりましょう。

「教書の心は」

四旬節教書の理解のために

村上透磨

今回の教書は、聖パウロのフイリッピ人へてた手紙を黙想しながら書かれています。

フイリッピ人へのこの手紙は、パウロの書簡中、最も慰めと喜びに満ちた書と思えます。

しかしこの手紙が獄中書簡と呼ばれ、ローマの獄中生活中に書かれたとも言われます。するとそこ

に今ある苦しい環境と、その手紙にあふれるこの喜びとの美事な対照に私達は驚かされます。

宣教の苦しみがどれ程大きかつたかは例えばコリント後書（11章）に描かれている通りです。

その中で、フイリッピ人の人々の中の豊かな宣教のみのりは大きな喜びの源となりました。

それが今の司教の感謝の心を美事に言い表わしているものとして、その同じ気持をここに描かれたものと思います。

今、司牧者として人々の上に立つ事は大きな十字架を荷うことであります。

「とげ」となつて現われましよう。私達はその切実な叫びと信仰告白をここから読みとることでしょう。

私達に十字架や重荷が与えられるのは、私達が憎まれているからでなく愛されているからだ。

私達が十字架を荷うのは、責められているのではなく、主の福音宣教の使命（命を使いかけた役割）を果す時、すぐ起つて来るものだ。改革していくことは手術することだがそこには必ず身を切らねばならないことがあるのですね。

社会と共に歩む教会として一早く教区ビジョンを発表し、それがナイスの社会に開かれた教会への先駆的な働きを致しました。

その意味では京都教区は切り開く役割を帯びているかもしません。この解説文を書きながら、ふつと浮かんだことがあります。

交わりと言う言葉。これは「十字架」から来ていると言うことです。

交わりと十字架は常に一緒だと言ふことあります。神との交わり、社会との交わり、他人との交わり、そこには必ず十字架がひそんでいます。しかし苦しみも共に荷う時、

それは司教の内外からくる苦痛

「とげ」となつて現われましよう。

私達はその切実な叫びと信仰告白をここから読みとることでしょ

う。それは司教の内外からくる苦痛「とげ」となつて現われましよう。私達はその切実な叫びと信仰告白をここから読みとることでしょ

う。さて、今回の教書の目的は具体的な事柄というより、具体化するために是非必要な心構えを示すこの様です。つまりこの心構えさえ出来れば、すぐ具體化に手をつけられるところまで私達の心を持つていくことが意図されているのです。もつともビジョン又は50周年の見直し（それはナイスの教区としての具体化でもあるのですが）から提案された中で青年センターの発足、アジア交流基金制度の設置はもう具體化をはじめています。

今大きな問題となつているのは「パイプのつまり」と「適正配置」の問題です。これは司牧評が特別に取りあげて検討中のことです。

そしてこの2つの問題も、ビジョンの見直しとナイスの具體化に応えようとする動きです。

パイプのつまりについては、「恥かしがらずもつと分かち合いを」という所で非常にひかえ目だが、

正配置や福音宣教者達役割遂行のための人事のため、すごく考えさせられる事ではないでしょうか。

司教も（そして福音宣教者達はみな）疲れているかもしれません。パウロと共に司教と共にフイリップ書を読みたい。そしてこの司教

その事の打開のため福音宣教するための意識化、特に社会に開かれた教会となるための改心が必要で、そのための養成とその方法を研究するというところまで今、来て

います。

適正配置について、はつとする言葉があります。それは「教会自体がいけにえになること」と言う見出しで語られていることです。

それは個人だけでなく、教会共同体（具体的に小教区も）もいけにえになるべきだ、ということ、又もう一つ、教会もしもべとなり仕える者とならねばならない、といふ事です。この2つの言葉は適正配置や福音宣教者達役割遂行のための人事のため、すごく考えさせられる事ではないでしょうか。

このパイプのつまりについては、
共に十字架を荷いつつこの福音書を読みたいものです。

喜びのおどすれ）を伝える者として。

京都カトリック 青年センター

あんてな ((((((((お)))))))

青年センターがスタートしました。去る1月15日行われた発足式に参加された方はこのセンターがどんなものであるか少しはおわかりいただけたのではないでしようか。参加されなかつた方はぜひその時の様子を参加した人に聞いてみて下さい。

さて、発足式の様子については別の機会にゆることにして、今回は青年センターの事務局の紹介をさせていただきます。

青年センターは現在、聖ドミニコ女子修道会のご好意によつて、京都修道院内の旧館の一室をお借りして仮事務所としています。まだ動き始めたばかりで本来の機能を果たせるようになるまで時間がかかるかもしれません。今のところ私が一人で専従者としてセンターに勤務しています。ただセンターにいるだけでは情報収集はできま

せんので出かけることもあります。もし来られた時は、運悪く留守をしている場合は、修道院の方へ渡辺をたずねてくださるのもいいかもしれません。シスター

は青年センターのスタッフです。責任者のオヘール神父は忙しい中、週一度奈良からセンターに来て下さいます。

次にたのもしい運営委員の面々を紹介しましょう。

岡田信作・頭島正(京都北)

・本田聰・川並秀明(京都南)

・篠田克巳・山里千恵(滋賀)・西村直樹・宮野征人(奈良)・川口順久・窪田真紀(三重)

・徳永綾子(ノートルダム教育修道女会)・柳本昭(司祭・西院)

(敬称略)

以上がスタート時点での主なスタッフですが、ほかに準備段階から関わってくれている青年たちがいます。これからどんどん輪を広げていきたいと思います。ぜひ一度青年センターをのぞきに来て下さい。

(文責 中口)

開館時間
土・日 12時～18時
火・金 10時～17時
休館日 月曜日・祝祭日

★青年センターの運営・活動のための援助をお願い致します。

「京都カトリック青年センター」

神様にならないで

原罪つて何か、その本質は何かと人はいろいろ言いますが、私は高慢だと思います。高慢とは何かというと、それは結局、神以外のものを神にすること。別の言い方

をすると自分が神になること。さて悪魔は言つた。「違う、神はうそつき。これを食べたら、神の様になるのがこわいんだ。」

神の様になる、神になる、これが知恵ある者の最大の誘惑でした。そこで負けたのが、

ルチフエル(光輝く者)そして悪魔となりました。それから人祖。人祖は神の似像として光り輝いてました。あらゆる点で。だから負けたんです。それから人間は同じ失敗をくり返しています。そうこうしているうちに人間は、物を拝みはじめました。お金を、権力を、科学の力を、人の力を、自分(エゴ)を。ところが、人は自分が王であると思っていたのに、その奴隸になつてしまつていた。

神は王を造る事を望みませんでした。人が神になるからです。(サムエル8)聖書の世界を一覧するところな

(A)エデンの園の木のもとで神の様になれと悪魔が言う

(B)シナイの山の十戒で、まず私以外の者を神とするな

(C)荒野の誘惑で

人は神の言葉により生きる神を試みるな

(B)山上の垂訓で、まず貧しい人は神を見る御手に託ねる、と主は言う

(A)カルワリオの木の上で

神はおそれのしるしなのですね。まことに神以外のものを神とする

漠の歩み(出エジプト)の再体験。それは世の終りまで繰返される出来事。

ちょっとあなたも

ちょっとわたしも (15)

そこでもいつも問題になるのは、神をとるか神以外のもの。それを神とするかなのです。まことに神以外のものを神とする時、不幸が目に見えていると

神は楽しんでいます。神が人になる事は恵みのしるし。だが、神以外のものを神とするのはおそれのしるしなのですね。どうぞ王が神にならない事を願っています。神にならぬ限り、その方のため生命も犠牲にして尽すのがキリスト者の生き方。(MT)

図式が出来上ります。

を、科学の力を、人の力を、自分(エゴ)を。ところが、人は自分が王であると思っていたのに、その奴隸になつてしまつていた。

神は王を造る事を望みませんでした。人が神になるからです。(サムエル8)聖書の世界を一覧するところな

お知らせ

▼諸活動の例会のご案内

◎正義と平和京都協議会

日時 每月第3土曜日PM6時～8時

場所 カトリック会館5F

教区スケジュール

2月

8日 灰の水曜日

12日 教区合同洗礼志願式（河原町）

17日 SVP理事会（河原町）

20日 京都南部司祭例会

22～23日 全国司祭会議（大阪）

23日 ノートルダム高校卒業式

24日 聖母学院高校卒業

◎子羊会

日時 每月第4日曜日

◎力トリック京都教区

指紋と人権を考える会

日時 每月第3日曜日AM11時～

場所 小山教会伝道館

▼高麗美術館見学会のご案内

日時 2月19日(日)AM11時小山教会集合

場所 高麗美術館

075(491)1192

◎京都結婚互助会

日時 每月第1日曜日PM1時30分～

場所 カトリック会館6F

▼四旬節黙想会のご案内

日時 每月第1日曜日PM1時30分～

場所 石鹼作り（西陣教会と九条教会）

2月25日 PM7時30分～第1講話
2月26日 AM9時30分～ミサ中説教
ミサ後第2講話

場所 九条教会
指導 コレーン師（堺教会）

▼どなたでもご参加下さい。



▼講演会のご案内

主催 本田哲郎師を迎えて

対象 どなたでも

日時 3月22日(水)AM10時～11時30分

場所 河原町教会聖堂

題目 聖書を生きる

▼講演会終了後、聖香油ミサがあります。

主催 司祭評議会

日時 3月22日(水)AM10時～11時30分

場所 河原町教会聖堂

最近は映画館へ行かなくとも、ちよつとスケールは小さくなるけどビデオですぐにみたいものが家で観られます。先日は「神々の履歴書」というビデオを观ました。私たちの身近なところに本当に朝鮮半島から入ってきた文化が多く、「あーあれも、これも」とびっくりです。

私たちの回りを歩いてみたり聞いたりしてもっと勉強してみたい。知らなかつたことが一杯あるのでは。(い)

(尚ビデオは教理センター視聴覚部で貸出しています。)



京都カトリック教理センター新共同訳用が
聖書インデックスできました



一般聖書用
200円

新共同訳用
追加分(1冊約9割)
80円

セットで 250円

お申にみ、お問い合わせは
京都カトリック教理センター ☎ 075-761-9095
まで